



-389-



ステツプアカ  
デミー塾長  
木村 泰治

### 夢を明確に思い描く

子供の頃、テレビや本でしか見ることが出来なかつた魅力的な異国の地に、いつかは行ってみたいという大きな夢を持っていた。

最初の冒険は大学時代、アメリカ大陸をバスで横断したことであった。どこまでも続くつすぐな道路にただただ感動し、夜中に真っ暗な中、砂漠の向こうから街の明かりが見えてきて、非常にわくわくした。帰り道では、お金が尽きてしまい、一個のりんごと水で2日間を過ごしたサバイ

付いたらいつの間にか列車ごと船の中に入っていたのには驚かされた。ベルリンの壁崩壊から3ヵ月後に現地に向かった時、まだ、治安は良くなかつたのだから。ベルリンに向かう

も平和が訪れているように見えて安心した。結婚後も、妻と一緒にアメリカ大陸、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアなど沢山の国や地域を旅行し、楽しい思い出が出来た。見ているだけで時間を忘れてしまうナイアガラ滝、熱帯魚に突っつかれながら泳いだハワイのハナウマベイ、今にも落ちそうなおんぼろセスナに乗ってハインドルを握らせてもらったマイアミのキーウエスト、遊覧船に乗って眺めたノルウェーのフィヨルド、少年の頃からずつと憧れていたエジプトのギザの三大ピラミッドを観た時の感動などなど、数え上げたらきりが無い。子供

の時からの夢が実現できた喜びとその場で体感してこそ味わえる新鮮な気持ち、何者にも変えられない貴重な経験である。子供に恵まれ、第二の夢を持つようになった。それは次代を担う子供たちに少しでも良い環境を残したいということだ。そのため、塾を開業し、子供たちにも夢を明確に思い描くことの大切さを伝えていきたい。私の生き方を観て、一人でも多くの子供たちが明るい明日を信じて努力したいと、前向きな気持ちをもてるように私も頑張ろう。

い出た。ヨーロッパには1ヶ月電車乗り放題というユーロパスがある。それを利用し、イギリスから出発しヨーロッパ各国を回った。オランダ発デンマーク行きの日間を過ごしたサバイ

寝台列車で、隣で寝ていた見知らぬ強面の男性がいきなり警察に連行されていき帰ってこなかった。ベルリン市内はどうなっているか不安だったが、到着してみると観光客で活気にあふれ、ベルリンに

昭和40年東京都生まれ  
練馬区関町在住